

2025年度 SYLLABUS 【博士後期課程】

授業科目名	演習 II
担当教員名	河野秀孝
科目 目 の テ ー マ	本演習では、演習 I 続く博士論文執筆のための授業であると考えてください。主な演習テーマは以下の通りです。 1. 理論面では、近年の目覚ましい理論及び実証モデルの発展を概観しながら、執筆論文の論理的体系を再吟味し、先行研究と比べての本論文の特徴「何が面白く、何が新しいのか」または、論文の勝負どころを明確にする。 2. 次に、実証面では、モデルの中で論理的に導出した仮説の検証をどのように行うかを、演習 I の方法とは別の方法でも考えてみる。そして、論理的に推敲された仮説が、自分だけの思い込みでなく、目的としたものの本質を炙り出しているかを、データで検証する。
科目 内 容 ・ 方 法 等	演習 I に続いて、以下のことに留意してもらいます。 1. 学会での発表を考え、再び関係ある過去の文献を読みながら、どこまで研究されていて、どこが未だなされていないのかを明確に認識する。つまり、過去の論文との比較で、執筆論文の位置付け、視点の違いを明確にする。この段階までくれば、問題意識もかなり明確で、先行研究の特徴を再認識することができる。 2. 論文の構成を考えながら、自分の考えをワーキングペーパーとして纏める。 3. 学内外の研究者の論評をもとに、モデルの精緻化を図る。 4. 学会で数回発表し、討論者のコメントをもとに、論理の推敲と論文全体の表現などを練り上げる。 5. 学会誌に投稿する。 以上のことが、演習 II で終了できない場合は、翌年も続けて継続する。
評価方法及び評価基準： A 評価: 授業内容を応用できるのみならず、批判的にとらえることを含めて、当該理解をさらに発展させられること。80 点以上。 B 評価: 授業内容を応用できるのみならず、批判的にとらえることを含めて、当該理解をさらに発展させられること。70~79点。 C 評価: 授業内容について、概ね理解していること。60~69点。 F 評価: 授業内容の理解度が不十分。60 点未満。	